

エベレスト登頂50周年記念フォーラム

1970年5月11日午前9時10分、最終キャンプを出発した松浦輝夫と植村直己は、日本人として初めて世界最高峰エベレストに登頂しました。快晴のなか、2人は並ぶようにして登頂したといわれています。それから50年の時が流れ、エベレストの登り方も大きく変わってきました。この度、植村の生誕の地、豊岡市・植村直己冒険館のリニューアルオープンに合わせ、記念フォーラムを開催します。講演や映画、写真展などで、高く遠いエベレストを少しでも身近に感じていただければと思います。



平林克敏
1970年のエベレスト隊
2次隊隊員としてエベレスト登頂



重廣恒夫
1973年エベレスト南西壁の世界
最高点(当時)到達、1988年
チョモランマ交差縦走登攀隊長

講演と映画の集い

2021年4月24日(土)
13時30分～17時00分
(受付は12時～)

会場：植村直己冒険館 小ホール

参加費：無料
(ただし、入館料550円が必要です)

定員：40人(先着)

申込方法：4月1日から電話にて受付
電話 0796-44-1515(植村直己冒険館)

プログラム

13:30～13:35 挨拶 古野淳(日本山岳会会長)
13:35～13:55 「エベレスト登頂ー1970年の記録」上映
14:00～15:30 トークイベント

①「初登頂への思い」 講師：平林克敏(日本山岳会、1970年2次隊登頂者)
聞き手：神崎忠男(日本山岳会、1970年登山隊員)

②「登頂ルートと装備・技術の変遷」 講師：重廣恒夫(日本山岳会)

15:30～16:10 ライブ・ペインティング「壁」
出演：黒田征太郎(画家、イラストレーター) 朗読：市毛良枝(俳優)
16:10～17:00 館内見学

映画上映 『エベレストへの長い道 海拔0から頂上へ』(約60分)
展示期間中、会場にて上映

エベレスト登頂者や市毛良枝さんと山に親しもう

4月25日(日)7時～16時

植村直己のふるさとの山、蘇武岳や大杉ブナ林をトレッキング

定員：60名(先着) ※詳しくは、植村直己冒険館まで

申込方法：4月1日から電話にて受付(0796-44-1515 植村直己冒険館)

植村直己冒険館 4月20日 リニューアルオープン



どんぐりbase 小さな冒険がここから始まる

植村直己の冒険精神や世界観を継承し、広く伝える展示に更新するとともに、新しく「どんぐりbase」を建設して子どもたちの成長を応援し、「生きぬく力」を育む体験や遊びのプログラムを提供する機能を追加しました。

- ▲ 展示リニューアル 植村の装備やエピソードを紹介
- ▲ チャレンジャーを応援 冒険賞受賞者等を紹介
- ▲ 「どんぐりbase」 大型ネット遊具、クライミング ツリーイング等



加藤保男(1980年北東稜からのエベレスト登頂時) 提供 佐藤精一

2021年4月20日(火)～6月29日(火)

エベレスト登頂50周年記念

写真で振り返る

日本人のエベレスト展



エベレスト南面 撮影・提供 大森弘一郎

1970年5月11日、日本人が初めて世界最高峰エベレスト(8848m)に登頂しました。その時から50年。この半世紀の間に、高所登山のスタイルは大きく変わり、それとともに、エベレストと人間の関わりもまたままぐるしく変化してきました。展示では、日本人とエベレストを切り口に、この50年を象徴する写真の数々を通してエベレストの歴史を振り返ります。日本人のエベレスト登山に思いをはせるとともに、エベレストの現状にも注目していただければと思います。

公益社団法人 日本山岳会

ナムチェガザール(1980年頃)



サウス・コルに散乱する酸素ボンベ

会場 植村直己冒険館
開館時間 9:00～17:00(入館は16時30分まで)
休館日 水曜日
入館料 550円
〒669-5346 兵庫県豊岡市日高町伊府785
電話 0796-44-1515

主催 公益社団法人日本山岳会 植村直己冒険館 協力 公益財団法人植村記念財団 国立登山研修所
写真提供・協力 大森弘一郎、山田圭一、Project Possible/AFP/アフロ、毎日新聞社、坂東郷土館ミュージズ、小谷明、タベイプランニング、佐藤精一、遠藤晴行、高橋和之、今井通子、読売新聞社、萩原浩司、ヒマラヤ観光開発、神長幹雄、難波賢一、野口健、村口徳行、ミウラ・ドルフィンズ(展示順)